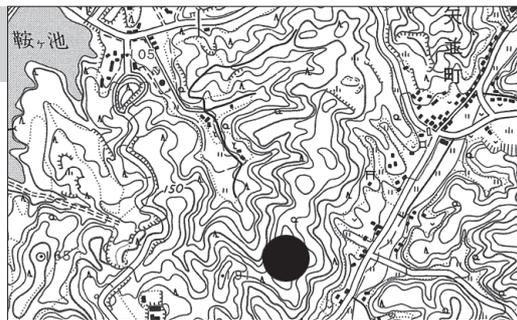


やなみしもほんじょう  
矢並下本城跡 範囲確認調査

所在地 豊田市矢並町地内  
調査理由 東海環状自動車道建設  
調査期間 平成12年5月～6月  
調査積 200㎡  
担当者 花井伸・小嶋廣也・成瀬友弘

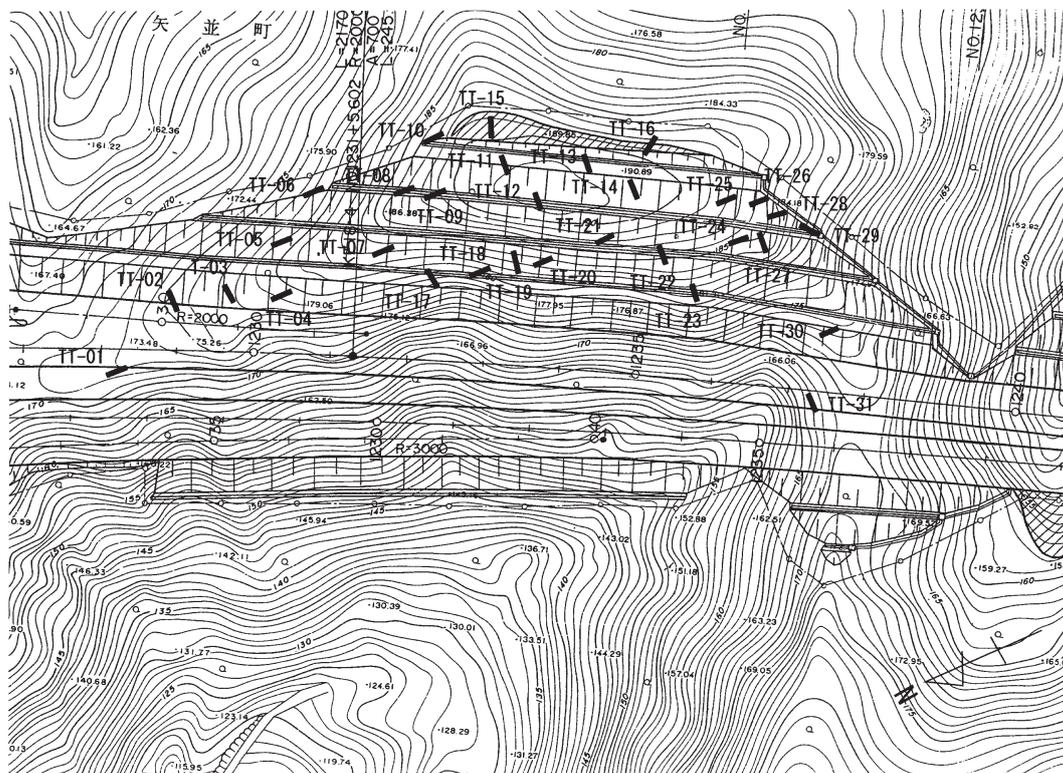


調査地点 (1/2.5万「豊田北部」)

**調査の経過** 調査は、東海環状自動車道建設に伴うもので、国土交通省より愛知県教育委員会を通じて委託を受け、矢並下本城跡の範囲を確認するために、31ヶ所にテストトレンチを設定した。なお、テストトレンチは概ね北から T.T.-01 と表記することとした。

**立地と環境** 矢並下本城跡は、矢並川右岸の南北に細長い山地頂部に存在する遺跡で標高約 190 m に立地している。付近には、対岸に鈴木善阿弥屋敷遺跡が、北東約 1 km の所に矢並上本城跡が存在している。

**調査の概要** T.T.-04～T.T.-07 で豎堀、T.T.-09・T.T.-10・T.T.-24・T.T.-25 で堀切、T.T.-15・T.T.-16 では曲輪境の溝を遺構として確認した。これら遺構の残存状況は比較的良好な状態であった。調査の結果、矢並下本城遺跡の範囲は、従来中世城館分布調査などで知られていた範囲よりも若干狭く考えなければならないと思われる。なお、遺物が出土していないために明確な時期や存続期間を知ることは出来ない。しかし、遺構の性格から考えて、戦国時代と推定される。  
(成瀬友弘)



矢並下本城遺跡範囲確認調査地点 (1:2,000)